

技術とまごころで 未来を包む 大石産業 創業100周年

福岡県北九州市の大石産業が4月1日、創業100周年を迎えます。宮宮八幡製鐵所の誕生により急速な発展を遂げた北九州で「モノづくり」のスピリットを繋ぎ、独自の道を切り開いて国内トップクラスの包装資材総合メーカーに成長し、アジアを中心に海外にも進出しています。これまでの100年を振り返り、次の200年に向けて山口博章 代表取締役社長に話を伺いました。

主力4事業の総合力で 安定経営

主力4事業につきましても、農業分野・工業分野で使われてきた事業内容をお聞かせ下さい。

パルプモールド、段ボール、フィルムはスーパーで見かける刺し身や惣菜、肉などの食品トレーの表面に貼られるポリスチレンフィルムを製造してあります。

パルプモールドは当社の主軸商品で、紙をリサイクルして作る環境に優しい立体緩衝材です。鶏卵をはじめリンゴやトマトなどの青果物用トレー、事務機器や医療機器などの工業品向け包装資材などを製造しています。通気性、吸湿性に優れた食品の鮮度を長く保ち、収縮性や強度に優れた素材で、お客様の大切な製品を衝撃から守ります。

段ボールも原料となる原紙はリサイクル率が高く環境に配慮された包装資材で、当社製品はみはりです。創業の経緯、大石産業の強みは何ですか。大石商店として薬工品や麻袋

北九州市で創業

創業の経緯、大石産業の強みは何ですか。大石商店として薬工品や麻袋



などを八幡製鐵所(現・日本製鉄)に納めはじめたことが当社のスタートです。そこから紙袋、段ボール、パルプモールド、フィルムへと事業を広げていきました。慎重ながらも挑戦する気持ちがあったからこそ、市場に先駆けて様々な事業にいち早く取り組んで来たものと思います。



1953年に新設された段ボール工場

傷つけずイチゴ輸送

今、注力されている新しい事業はありますか。

当社開発品である新型イチゴ容器「ゆりかご」が注目を集めています。

イチゴなど柔らかい果実は傷や衝撃に弱く、長距離輸送が難しいとされています。しかし「ゆりかご」は、独自の成形技術で特殊な柔らかいフィルムをイチゴに成形し、イチゴ1個1個を包む吊り構造となっており、輸送中の振動を緩和、傷を防止することで、長距離輸送や海外輸出を可能にしました。製品名は、ゆりかごにかけたイチゴというイメージからきています。

マレーシアに新会社設立

近年はアジアへの事業展開も進んでいますが、事業概要や狙いを教えてください。

90年にマレーシアに重包装袋の生産拠点を設置し、アジア進出をスタートさせました。その後シンガポールに営業所を開設しましたが、2024年10月に高品質な日本産品を輸入し、東南アジアで販売するための子会社「FUSIONS TRADE

ING MALAYSIA SDN.BHD」を新しく設立しました。マレーシアほかシンガポールやインドネシアなど、東南アジアの富裕層を中心に日本の美味しい果物などを広める狙いです。

循環型社会に貢献

1次の100年に向けて、将来のビジョンを教えてください。

北九州で創業100年を超える企業は多いですが、多くの企業が製鉄所との取引で技術力を育ててきたからこそ長く続けられてきたものと思います。例



大石産業 代表取締役社長 山口博章氏

1925年	大石商店創業。薬工品・麻袋を販売
1947年	株式会社大石商店設立。
1948年	大石工業株式会社設立。スコップ等の製造・販売を開始
1949年	重包装袋の製造・販売を開始
1952年	株式会社大石商店と大石工業株式会社が合併により大石産業株式会社に社名変更
1953年	段ボールの製造・販売を開始
1963年	パルプモールドの製造・販売を開始
1967年	フィルムの製造・販売を開始
1980年	福岡証券取引所に株式上場
1990年	マレーシアにCORE PAX(M)SDN. BHD. 設立
1994年	シンガポールに営業所開設
2013年	マレーシアにENCORE LAMI SDN. BHD. 設立
2022年	東京証券取引所第2部(現スタンダード)に株式上場
2024年	マレーシアにFUSIONS TRADING MALAYSIA SDN. BHD. 設立

未来を包む - Inclusion for Future -



大石産業株式会社



https://www.osk.co.jp

